

日本聖公会 全国青年ネットワークニュース

日韓聖公会青年セミナー開催へ

事前研修も開催

五月四、六日、八月にも一区切りをつけました。行われる日韓聖公会青年セミナーの為の事前研修会が管区青年委員会の主催で行われました。全教区から一名ずつ選出された青年が参加し、スタッフや講師を含め二十名弱の集まりで行った。会場は名古屋学生青年センター。

日韓聖公会の公式交流は二〇〇四年で二十周年を迎え、両国交互に開催され十年続けてきた青年交流キャンペーンに



事前研修会の具体的なプログラムとしては、朝・夕・就寝前の礼拝、青年委員会委員長の野村潔司祭(中部教区)による「聖公会の宣教理解の歴史的变化と日本聖公会」に関する学び、立教大学でアジアのキリスト教に

も一区切りをつけました。管区の機構改革の影響で、日韓協働委員会が正義と平和委員会の一プロジェクトに位置付けられ、青年の交流に関しては青年委員会が担当することになりました。青年委員

会では、これからの日韓青年のプログラムについては、両聖公会の宣教課題を分かち合い、共通の課題について協力していく関係を目指すものとして位置付け、今回のセミナーを企画することになりました。



(講演する香山司祭)

的な経緯の中で見直され、神を中心とする理解へと大きく転換し、世界で働いておられる神に仕えることが教会に求められることになりました。この宣教理解の変化について、英国教会の成り立ち、植民地支配との関係、多文化社会の到来などの歴史の経緯に沿って、ラン

ついでに教鞭も取っている香山洋人司祭(東京教区)による「日韓近代史・教会史、韓国の分かち合いの家と日本の教会のあり方」と題した講演、八月のセミナーで分かち合うための「日本の宣教課題」についてのワーキンググループの形成が主なものでした。アイスブレーキングやワークショップ、歌なども取り入れ、豊かな学びと気付きが与えられました。

聖公会の宣教理解に関して行われたセッションでは、これまで宣教の主体は教会だと思われていたが、数百年に渡る歴史



(グループ作業に取り組む参加者)

講演では、先生ご自身が大韓聖公会の分かち合いの家に関心を持つに至った経緯の話からスタートし、現在講義を担当している立教大学のキリスト教学科目「アジアのキリスト教」の

聖公会中央協議会エキメニカル関係常置委員会、WCC(世界教会協議会)中央委員会などで活躍されている西原廉太司祭(中部教区)を招き、日韓の聖公会の青年たちを取り巻く社会や教会(神学)の状況と

目「アジアのキリスト教」の為に作成されたテキストをベースに、キリシタン弾圧と朝鮮侵略の関係から、日本による植民地支配、その後の軍事独裁下に至るまでの歴史と韓国のカトリックおよびプロテスタント教会史、分かち合いの家の成り立ちなどについて分かり易くお話ししました。

八月のセミナーで予定されている日韓聖公会それぞれの青年の発表と共有に十分な時間を取り、日韓聖公会の青年の視点によつて、両聖公会の宣教課題を分かち合い、共に宣教の担い手として、それぞれで、また一緒に、何をしたいのかについて考えます。

さらに日韓関係の歴史と現在の問題に関連して、日本にとつて「終戦記念日」の象徴である靖国神社や、逆に「光復節」としてこの日を祝う在日のコミュニティ(神奈川県・川崎)などへのフィードバックも予定しています。

全国青年ネットワークのブログ (http://youthskk.exblog.jp/) を今年一月に立ち上げて、様々な情報を随時アップデートしています。どうぞご利用ください。